

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012 年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 原 将也

平成 23 年度 (入学)・編入

1. 研究課題:

ザンビア北西部における焼畑農耕民の生業活動と多民族間にみられる相互扶助

2. 渡航先:

現地滞在期間: 平成 24 年 12 月 14 日 ~ 25 年 3 月 8 日 (85 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の渡航では、ザンビア北西部の焼畑農耕民の生業活動に着目し、どのように生計を維持しているのか検討することを目的としていた。本調査を実施したのは、雨季でありトウモロコシやソルガムの端境期であった。雨季の生業活動について観察するとともに、穀物の端境期における食糧のやり取りについて観察した。調査地内において多くの物は購入されていたが、キャッサバは贈与されることもあった。今日ではザンビア農村部においても、現金経済が浸透し、これまで述べられてきたような相互扶助のような関係は減りつつある。しかし本調査ではキャッサバ、とくにその種茎は贈与されており、これまでキャッサバを栽培してこなかった人びとも容易にキャッサバ栽培を始めることができる環境にあった。穀物が減少し、食糧不足に陥る雨季には一年中収穫可能なキャッサバは救荒作物として重宝されている。キャッサバを中心にして、相互扶助の関係が形成されているかどうか、今後も注視していきたい。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今回の渡航では、これまでの調査結果を踏まえて、おもに食糧のやり取りに関する聞き取り調査を実施した。今後は広域調査を実施し、ザンビア国内で営まれている生業形態について広く検討したいと考えている。また、私の調査地には 5 民族が混住しており、それぞれが母語を持っている。調査するうえで現地語を習得する必要があると感じており、今後はルンダ語のみではなく、他の 4 言語についても習得し、より正確な調査ができるようにしていきたいと考えている。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムのように、大学のみではなく調査地で調査を実施できるようなプログラムがあるとよい。また、先述したような現地語を習得できるような留学プログラムがあれば参加したいと思っている。

*1 ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名